

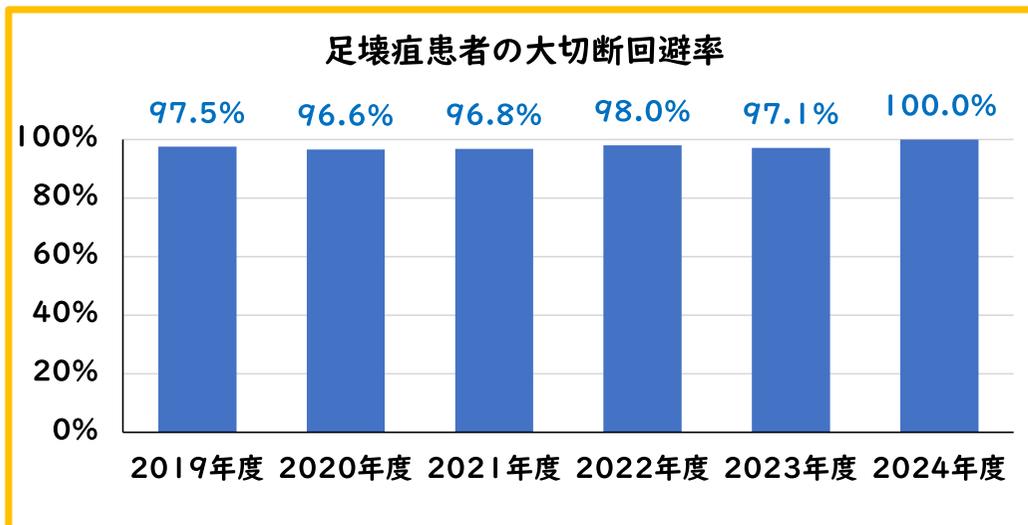
20 足壊疽患者の大切断回避率

形成外科

◆解説◆

糖尿病患者さんが増加し、足の潰瘍や壊疽という病気(糖尿病足病変)にかかる人が増えています。放置すると皮膚や皮下組織などが死滅し重症の血流障害や細菌感染を起こします。広範囲な壊疽や重症感染を合併すると足を切断せざるをえなくなります。足の切断は著しく生活の質(QOL)を低下することになり、大切断の回避することは足壊疽の治療において重要な目標の一つです。

◆当院の実績◆



◆自己点検評価◆

2024年度は足壊疽患者の大切断は0件でした。多くの症例で大切断回避はできていますが、受診時から重症な場合など回避できない症例もあります。

今後は、予防啓発なども必要となると思われ、それにより早期受診、予防の向上に努める必要があると思います。

◆定義◆

足壊疽患者数(分母)の中で、大切断(術式:K084 四肢切断術(大腿、下腿))を行わなかった患者数(分子)の割合